

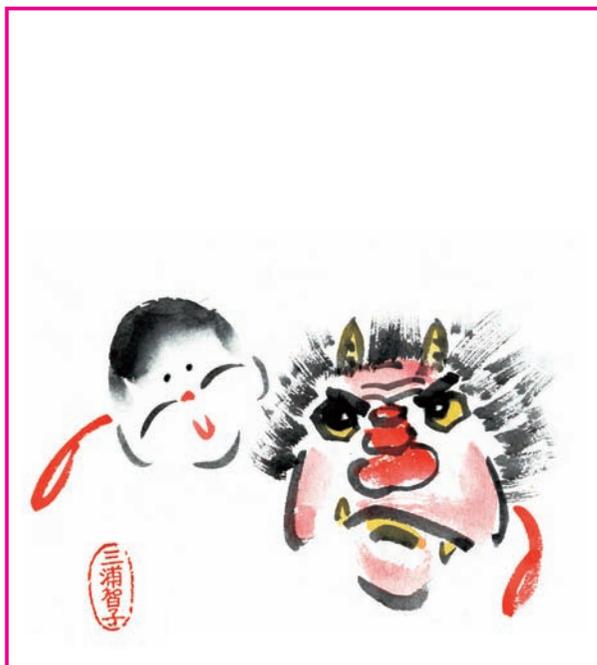
いしかわ 県薬レポート

2012、1 No.66

編集発行
金沢市広岡町イ25-10
(石川県薬事センター内)
社団法人 石川県薬剤師会
会長 能村 明文

目 次

- 年頭所感
石川県薬剤師会
会長 能村 明文…… 2
- 新年挨拶
日本薬剤師会
会長 児玉 孝…… 3
- 薬剤師新世紀の幕開け
藤井もとゆき…… 5
- 徳久和夫先生を偲んで
綿谷 小作…… 6
- 徳久和夫先生の思い出
中森 慶滋…… 8
- 介護フェスタいしかわ2011に参加して
橋本 昌子……12
- 今年も「健康フェア」
三浦 智子……13
- 6年制第1期生の卒業にあたり
多田 昭博……14
- いまだからこそ薬学教育を考えよう
宮本 謙一……16
- オペラ高野聖
中森 慶滋……18
- 古寺との結縁
院瀬見義弘……21
- 薬剤師生涯学習説明会……26



三浦 智子 画



年 頭 所 感

石川県薬剤師会

会 長 能 村 明 文

新年明けましておめでとうございます、
会員各位には、心新たに新年をお迎えること
お慶び申し上げます。

平素より本会の諸事業にご理解とご協力を
賜り心から感謝申し上げます。

さて昨年は過ぎ去った年ではありましたが、
本会にとりまして忘れることのできない
一年でありました。

春まだ浅い3月11日、宮城県沖を震源地
とする巨大地震が起こり、引き起こされた
大津波は青森県から三陸、関東地方沿岸部
を襲い、手の施しようのない残酷な大災害
を引き起こしました、東日本大震災であり
ました。

本会は日本薬剤師会の被災地支援スキーム
により4月から6月末まで、宮城県石巻市、
女川町において活動いたしました、全国
の延べ8,000名を越える薬剤師の方と
ともに医師、看護師、保健師等の医療関係者
と協力し被災地医療支援に参加しました。

私が現地へ派遣された頃は4月半ば過ぎ
でしたが、潮のにおいが混ったヘドロの粉
塵が飛び交い、桜が咲きそしてまた粉雪が
降るなか現地の関係者は寝食を忘れて支援
活動を行っていました。

このような未だ経験をしたことのない今
回の支援活動からどうしても何を学びと

り、そして今後に備え活かさなければ、多
くの犠牲者の方に大変申し訳なく思いま
す。

また9月には前会長徳久和夫先生が突然
にご逝去されました、先生が長年情熱を傾
けられた六年制薬剤師の誕生目のことで
した。

本年には新薬剤師が誕生します、先生と
共に目にすることが出来ないことは大変寂
しいことであり残念に思いますが、確実に
新たな時代への幕が開き、明日への歩みが
始まりまる事でしょう。

そして本年は新たな組織へ移行する年
になります、現在の社団法人から公益社団法
人へ、会員各位のご協力のもと新定款等を
決定し、諸手続きを開始して、新たな組織
への申請を行う一年でもあります。

公益社団法人は常にその活動を通じ社会
の保健衛生向上に貢献する薬剤師集団の組
織であります。

具体的には、本年は本会主要事業である
在宅・介護医療向上に関する事業は開始以
来3年目をむかえます、当初の事業計画に
沿って確実な取組みを行っていきます。

特に本年は医療保険及び介護保険の両保
険制度が同時に改定されると年にあたりま
す。

私達の真剣な医療及び介護両保険への対応と体制整備が特に求められます。

また、薬剤師職能を生かす活動として特に現代の五大疾病の一つである「うつ病」に係る向精神薬の過量服薬リスクを予防し自殺者低減を図るゲートキーパーとしての役割も地域社会から強く求められています。

薬剤師は新たな時代の幕開けに際し生涯にわたる薬剤師職能の維持と向上を図る生涯学習への取り組みが求められています。

日本薬剤師会が提示する「プロフェッショナルスタンダード」を生涯学習の指標として段階的に習得し、ジェネラリストとして

の薬剤師を目指さなければなりません。

幸い本会には既に先輩各位がこれまでに一連の薬剤師生涯学習制度を構築され開始以来十年の歳月を経ています、本年もまた引き続き三カ年にわたり「プロフェッショナルスタンダード（SP）講座」として開講されます、会員以外へも門戸を開いていますのでお誘い合わせの上ぜひ研修に参加して下さい。

以上本年もまた会員各位にとりまして充実した素晴らしい一年になることを、心から祈りし、年頭のごあいさつといたします。



新 年 挨 拶

日本薬剤師会

会 長 児 玉 孝

新年明けましておめでとうございます。会員皆様におかれましては、心新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より日本薬剤師会の諸事業にご理解、ご協力賜っておりますこと心から感謝申し上げます。

さて、昨年は、東日本大震災という未曾有の災害が発生し、それに対して、現地の被災地への救援活動に全国各地から困難な中、参加いただきましたこと、また、義援金に際しましても御協力いただきましたことあらためて感謝申し上げます。何より、

結果として災害医療における薬剤師の役割が、社会的に再認識されたことは薬剤師職能の向上にとって意義があったと思います。尚、各被災地の復興はまだまだ始まったばかりで、被災者にとっても、私共仲間の薬剤師にとっても、まだまだ“震災”は終わっていません。なかでも、福島原発地域の薬剤師は復興の目処すらたっていません。一日も早い復興をお祈り申し上げます。

一方、本年はいよいよ6年制薬剤師が社会に出てまいります。薬剤師の将来を担う

彼らに期待をすることともに、私共、各職域の先輩薬剤師として暖かく迎え入れ、今度は社会人の薬剤師として実習時と同じように御指導よろしく申し上げます。

さて、本年も多くの薬剤師に係わる改正があります。その中で、特に都道府県薬剤師会に関わる重要な課題を時系列的にお示しします。

①地域医療計画の見直し

(H24. 4～都道府県単位で見直し)

(H25. 4～実施予定)

御承知の通り5～6年毎に地域医療計画が見直されますがH23年度中に国レベルの見直しが終了し来年4月より各都道府県毎の見直しが始まります。そのキーワードは超高齢社会に向けての地域（在宅）医療体制の再構築です。また、精神疾患に関する医療体制も入ってきます。数年先を見据えてこの機会を逃さず、開局・病院薬剤師の役割、薬局の活用を必ず計画に入れていただくようお願いします。

②医療法、薬事法の一部、地方行政への移管

(H24. 4～医療法一部移管)

(H25. 4～薬事法一部移管)

この地域医療計画見直しに合わせるかのように本年4月より病院、診療所における病院薬剤師の人員配置基準等の地方移管、また来年4月からは薬局の許認可等の薬事法の一部が同様に地方に移管されます。各病院薬剤師会、地方関係行政との厳密な連携のもと対応をお願いします。

③薬事法改正の経過措置終了

(H24. 5. 31まで)

本年5月31日をもって3年間の経過措置

期間が終了します。薬事法の大きな改正であったことから国民、関係者（薬局等）への周知期間が必要である事から設けられた処置です。しかしながら経過確認のため実施された過去3回の厚生労働省の一般用医薬品販売制度定着促進事業の結果は非常に厳しいものとなっています。本年6月からは経過措置が終了し薬事監視の対象となりますがキーワードは直接対面による薬剤師としての説明及び第一類の文書による説明の徹底等です。国民の目からも失態は許されません。よろしく願いいたします。

③公益法人の見直し (H25. 11まで)

日本薬剤師会は本年4月から公益法人として再スタートしますが同様に全都道府県薬剤師会はH25. 11までに一般社団か公益社団を選択する必要があります。この目的はオール薬剤師が加入できる環境を再構築をするための組織改革です。この貴重な機会に是非オール薬剤師という“人”の会員組織づくりをお願いします。

以上のように本年は超高齢社会に向けて地域（在宅）医療体制が大きく変化し、それに対応するための都道府県及び支部薬剤師会のご努力とそのための組織改革が重要です。そして最終的には薬剤師一人一人の覚悟と実行力が不可欠です。

日本薬剤師会執行部といたしましてもそれを支援するために全力を尽くしていきたいと考えています。

本年は辰年です。十二支で唯一架空の動物です。本年が皆様にとって“夢”のある“昇龍”になる年であることを祈念申し上げます。



薬剤師新世紀の幕開け

参議院議員

薬学博士 藤井もとゆき

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、お健やかに輝かしい新たな年をお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、本年は薬剤師にとりまして歴史に残る、記念すべき年となります。長期実務実習を含む6年にわたる薬学教育を受けた薬学生が、新たな薬剤師として4月に社会に巣立つこととなります。新たな薬剤師の誕生は、わが国の医療の質の向上に寄与することとなり、他の医療提供者のみならず患者からも大いに期待されております。

医薬分業の進展により、薬局薬剤師には地域におけるチーム医療、在宅医療への参画が求められ、病院薬剤師においては院内でのチーム医療への参画により、活動の場が病棟はもとより、更に手術室などにも拡大しております。そのような薬剤師職能を支えるのが薬学教育でありながら、実務実習を伴わない基礎薬学中心の薬学教育が長年続けられてきました。医薬分業の進展が予測できた平成6年（1994年）、厚生省（当時）は、薬剤師国家試験の受験資格を6年間の一貫教育を終了した者に与えることが望ましいとの検討委員会の報告書をまとめて公表しました。しかし、その後薬学

教育の改善について検討してきた文部省（当時）の調査研究協力者会議は、平成8年（1996年）に、現時点で学部4年の年限の延長は困難とする報告書をまとめて公表し、6年制の議論は一旦留まることとなりました。

しかし、その後の薬剤師を取り巻く業務環境の変化を背景に、日本薬学会において薬学教育のモデルカリキュラム案の検討が始まり、平成16年（2004年）に学校教育法が改正され、長年の懸案であった薬学6年制がやっと実現しました。

修業年限延長のネックとなっていたのが長期実務実習の場の確保でした。付属病院のない薬学部においては、一般の薬局や病院が実習生の受け入れを行わなければならない、薬剤師会をはじめとする関係団体及び関係者のご努力に、改めて敬意を表したいと思います。

6年制薬剤師への期待は、平成22年（2010年）にまとめられた厚生労働省のチーム医療の推進に関する検討会の報告書でも述べられており、リフィル処方せんの導入、薬物の血中濃度測定のための採血や検査オーダ等が例示され、薬剤師の業務範囲の拡大について検討すべきとしています。

ところで、昨年は東日本大震災という、未曾有の被害を受け、国民一丸となって復旧・復興に邁進してまいりましたが、未だ道半ばであり、今年も多くの皆様のご支援をいただかなければなりません。被災者を支援するため、多くの薬剤師がボランティアとして被災地に赴いていただき、薬剤師の存在をアピールしていただきました。私も、国会の場で薬剤師の活躍について訴えることができました。

さて、本年4月からは改定された診療報酬・調剤報酬、介護報酬、薬価基準のもとで薬剤師業務が展開されることになり、6年制薬剤師の誕生を受けて、薬剤師に対する社会貢献への期待は益々高まるものと思われまます。

薬剤師にとっての新世紀の幕開けに当たって、貴会及び会員の皆様の益々のご繁栄を祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

徳久和夫先生を偲んで

石川県薬剤師会副会長 綿谷小作

私共が尊敬し、信頼をもって本当に多くの御指導をいただきました徳久和夫先生の御霊前にこのように立とうとは心にも思っておりませんでした。

8日にご入院のご連絡を受け能村会長と病院へお伺いいたしましたが、もうお話しは出来ませんでした。

9月4日の県薬の研修会々場でお声掛けいただいたのが最後でした。先生は金沢大学附属小学校から旧制金沢第一中学校へ入学なされ、学制の変更によって県立泉丘高校を御卒業になられ、金沢大学薬学部で学業を修められ薬剤師とされました。

先生の強靱な意志をもつての自立心、行動力、指導力等は先生の学生時代、第二次世界大戦末期における沖縄戦で薬剤官として従軍なされていた御父君が戦死なされた

ことが先生の今日に至るまでの原点にあり、ご活躍の原動力となっていたと思っております。大学を御卒業なされ衛生化学教室にお残りになり、御自信の研究と後輩の指導にかかわられた後、現在の地で徳久薬局を開設なさいました。

折りしも学校保健法の公布で学校保健の分野での学校薬剤師の必置制のもとで当時の県薬会長の田中嘉太郎先生や同僚の河村健先生と共に金沢市学校薬剤師会、次いで石川県学校薬剤師会を設立をなされ、自らも金沢市立泉中学校の学校薬剤師の拝命を受けられ、現在に至るまで50年余に亘って、学校環境衛生や医薬品の安全管理、薬物乱用防止活動等の課題に常にパイオニアとして私共への指導を御自身の業務に御活躍いただきました。

北陸学校保健会、日本薬学会、日本東洋医学会、2年前に金沢で開催された総会で会頭を担われた日本薬史学会等々、多くの学会に所属なされ、学術面で自己研鑽に意を注がれました。

石川県薬剤師会での御活動、御活躍については万人が認めて下さるところですが、役員としては理事を8年務められたあと、副会長として薬剤師会業務を総覧するお立場となられ、実に30年間に亘って舵取り役を担って下さいました。

平成12年から10年間、会長として会の運営や会員の指導等の御尽力いただきました。

石川県保険薬局協同組合の設立 薬剤師会検査センター設立 石川県薬事センターの設置 石川県南加賀医療圏医薬分業推進センター 認定薬剤師研修制度における石川県薬剤師会へのプロバイダーの認証

そして薬学教育6年制で昨年度から正式にスタートした「薬学生実務実習」の取り組みを見越して平成8年から推進事業として取り組まれました。

これ等の事業は徳久先生が強力な指導力で、先頭に立って進められて成就された事業と思っております。

日本薬剤師会においては一時期の理事、10年間に亘る日薬代議員会における御発言、各種委員会での御活躍は日薬の会務に大きな影響を与え、日薬の発展の一端を担わされたと確心いたしております。

中でも、特に「医薬分業対策特別委員会」での4年間の委員長兼務を含めて、当時ほとんど進んでいなかった医薬分業の進

展に向けての諸策に取り組みました。

これが現在につながっております。

当時私達は徳久先生のことを分業気違い“分キチ”とお呼びし、先生はそれを甘受されて下さいました。

地元金沢の二つの大学の薬学部で、非常勤講師、客員教授、あるいは臨床教授として全県から集まってこられた学生さん達への教育指導にもお力を注がれました。

先生のご功績を思いおこし、少し綴ってみました。きりがありません。

先生は色々たくさんの趣味をお持ちでしたがおのおの夫々に豊富な知識と御造詣をもってのものでしたのでついでゆけませんでした。

徳久先生に御趣味に中で特別扱いしなければならぬものの一つは島倉千代子さんの熱心なファンだということです。新人の頃からの熱烈な支援者で、公演で金沢へ来られたとき薬局へお千代さんから電話がかかってきたこともありましたネ。先生はお千代さんの曲は全曲知っていらっしゃるには驚かされました。一度公演につれていただいた時に憶えた一曲だけは私も歌えます。

徳久先生を深く理解されて優しく支えて下さった奥様やお嬢様もおっしゃるように“人の為に尽くした人”でしたね。

本当に忙しく、人の為に尽くした方 徳久先生 長い間色々とお有難うございました。先生にお教えいただいた歌“そっとおやすみ”を心で歌わせていただきます。おやすみなさい。



「徳久和夫先生の思い出」

石川県薬剤師会 中 森 慶 滋

先日の講習会が終わったあと、徳久先生の娘さんの宏子先生がわざわざ僕をお待ちいただき声をかけていただいた。以前僕が徳久和夫先生の思い出をブログ書いた文章を読まれたとのこと。次にこう言われた。

「父はブログに書かれた通りです。ありがとうございました。」そこでそのときブログに書いた文章を県薬レポートに投稿することにした。

2011年09月10日

徳久和夫先生の思い出

朝一番に携帯にかかってきた電話で急逝の知らせを受ける。しばし言葉を失う。仕事手がつかない。その日の夜、僕の精神的な動揺は徳久先生のお顔を拝見することで、やっと収束に向かった。そのお顔はいまだ息をさされていられるかのようであった。

徳久先生から電話があったのはちょうど10年前の2001年のことであった。富山で開催される北陸信越薬剤師学術大会に、当時僕が行っていたインターネットでの医薬品の情報提供についてまとめ発表してみませ

んか。といわれた。なにぶんそのような経験がなかったので戸惑ったものであったが了承した。

当時はまだパワーポイントも一般的ではなく使用はできなかった。そのため、OHPのスライドをパソコンから印刷して使用した。富山県でのことである。緊張する中初めての発表を行った。途中口の中が乾燥してのどがからからになってきた。僕は緊張すると喉が渇くということを知った。そのときから演壇には必ずペットボトルを持参する癖がついた。何とか無事に発表を終え席に戻ろうとした時、目の前に徳久先生が座っていらっしゃった。お辞儀をすると満面に笑みをたたえられて右手でOKサインを作られた。こんなのではまだまだ駄目だと思っていたものの、その指のサインで救われたような気がするとともに徳久先生の大洋のような広い心に接したように思ったものである。北陸信越薬剤師学術大会には、そのときを含め5年間全県での発表を徳久先生から強制され無事最後の長野県までたどり着くことができた。徳久先生は僕の番になるころには必ず聞きに来てくれた。

医療薬学会で座長を任された時には僕の座長の前ふりの話の内容に流れを作ることができましたねと評価をいただいた。しかし徳久先生がお考えになられる水準には達していないことを僕自身が一番よく知っていた。

今年の8月、日本薬剤師会の代議員会で僕が初めて北陸信越薬剤師会から質問することになった。要旨原稿が北陸信越薬剤師会でも了承されたので、逡巡したものの徳久先生にそれを送付することにした。8月上旬のことである。しばらくしても全く音沙汰が無かったので、ご覧になられなかったのか、それともコメントを口にするまでも無い内容と思われたのかと思っていた。

8月もお盆が過ぎ、街が日常を取り戻したころ徳久先生から電話があった。まず送付した文についてのお礼を言われた後「これは北陸信越薬剤師会です承されたものですか」と聞かれたのでそうである旨伝えると、「ああそれは良かった。」と言われた。発表の順番を聞かれたので3番目ですという。「3番目であってもその前の二人の先生がご質問される内容を頭に入れておいて、かぶることが無いよう気をつけなさい。」と言われる。そして「質問することで日本薬剤師会について深く考えることになるから良い経験ですね。」と言われた。

それから2～3日経ったころであっただろうが、徳久先生から再び電話があった。20年前に徳久先生が叙勲を受けられたとき、先生が書かれたものをまとめた文章を見つけたのだけれど、それを読んだことはありますかと言う。読んだことは無い旨を伝えると「それではお送りしますので読んでみてください。」と言われた。郵送されてくるものと思っていたのだが、その日のうちにその文集は届けられた。それは徳久先生の足跡をしるしたものであった。

今ここには石川県薬剤師会の封筒がある。表には「中森先生へ」と書かれ裏には徳久和夫と書かれたゴム印が押され、2011年8月23日と僕が鉛筆で書いている。

お礼の手紙にはこう書いた。

+-+-+-----+

……さらに「医薬分業30年の歩み」におきましては、心の底から深くその意味を理解できたように思いました。そこからは諸先輩方が何もない中から新たなる仕組みを作り出す血の滲むような努力と崇高な理念が現在の状態を作り出されたものと分かりました。

それはこれまで私が読んだどんな文章よりも感動を呼び起こす内容に溢れていまし

た。現在に至る道筋が理論立てて書かれていて、なおも現在とは全く変わらない不動の精神がすでに確立していたことに感銘を覚えました……。

中森慶滋 拝

+-+-+-+-----+

以下は徳久先生のインタビューが記録された文章である。

+-+-+-+-----+

その当時、薬剤師会としては、備蓄一覧表のようなものをつくりまして、薬局に、最少限度こういうお薬を備蓄しましょうということを指導したんです。私は開業した直後でしたから、それを額面どおり全部、百何十品目でしたかそろえまして、薬局薬剤師のプライドみたいなものもあって、調剤室にそれを並べておったんです。ところが、そんなことで処方箋が発行されるはずもないんですけれども、現実に昭和31年度は1人もそういう患者さんが来られなかったわけです。

(略)

やはり、医薬品情報と、患者情報と、そういうものが統合されたところに新しい調剤にかかわる仕事が出てまいりますね。ここらがやはり一番大きなところでしょう。

患者さんとの対話がなければ、交流がなければ仕事がだんだんできなくなってくるね。お年寄りなど眼科にかかり内科にかかるという複数の医療機関での受診がありますよね。同じ薬局で処方箋を受け付けると、薬歴によって重複投薬があればチェックできますし、前回処方とのつながりでもってその処方の内容をある程度判断していくという作業が出てきますね。薬歴があるからはじめてそういうチェックができるんです。

薬歴があって、より調剤の有効性と安全性とが確保されると思います。いま試行錯誤の中でそんな仕事をしているところです。薬歴管理学というものもまだないですね。薬学教育と関連すると思うんですけども、ある程度基礎的な臨床に関する知識が必要ですね。そうでないとプロとしての対応ができないですよ。いま薬科大学を出てきたばかりの薬剤師さんに、受付に出て患者さんとのやりとりの中から、患者さんの状況、例えばアレルギーの問題とか、いま使っている薬、既往症、妊娠しているかどうか、お酒を飲むか、たばこを吸うかというような生活習慣、そんなようなことを聞き出して、それで処方箋と見比べて判断をしろと言っても、これはちょっと難しいですね。ここらがクリアーできて初めて薬剤師として調剤できるんじゃないですか。

(略)

前向きに取り組めば、必ず医薬分業というものは日本の国で定着するであろうし、しかも薬剤師の仕事として実りあるものになることも、確信をもって言えると思うんです。そういう勇気をもう一ぺん持ってほしいと思うんです。

「医薬分業30年の歩み」 日本薬学会

昭和61年9月10日

+-+-+-+-----+-----+

「20数年前の文章ですが、今読んでみても十分納得がいく内容ですのでぜひともお読みになってください。」

徳久先生のその言葉と文章の内容が頭に響いている中、代議員会で質問を行った。

9月4日の日曜日、在宅介護をテーマにした研修会が行われた。会場に入ると右手前方に徳久先生が座られているのを見つけた。講義が終了すると会場がざわめき、いろいろな先生がたと挨拶や雑談を行っているときに、徳久先生が歩いてこられるのが分かった。先生のところまで行き、届けられていただいた文集についてお礼を言った。すると徳久先生は届けた文集のことよりも代議員会での質問の方を気にされていたよ

うで、「質問はうまくいきましたか。」と真っ先にいわれた。

感謝の気持ちを先生にお伝えした。

それが5日前の日のことである。

徳久先生がお好きだった島倉千代子の歌詞が届けられた文集の巻末に書かれていた。

こがらしの道 つらくても
ひとりじゃないぞ 負けないぞ
あなたよ 明日の幸福は
結ぶこの手に 花ひらく
呼ぼうよ 呼ぼうよ 太陽を
涙の谷間に 太陽を

涙の谷間に 太陽を



介護フェスタいしかわ2011に参加して

石川県薬剤師会理事 橋本昌子

平成23年11月12日（土）石川県女性センターで介護フェスタいしかわ2011が開催されました。医師会、看護師会、薬剤師会、ケアマネ協会、介護福祉士会など介護にかかわる15団体が主催する全国でもめずらしい取り組みです。

メイン会場では、ゴスペル歌手の市岡裕子さんが、講演で母の自殺、父のアルコール依存など自らの経験を語り、今苦しんでいる人に少しでも希望を持ってというメッセージを送りました。恒例の小杉爆笑劇団は、よしおじいちゃんをめぐっておこる事件で、面白おかしく高齢者問題をとりあげ楽しみながらも考えさせられました。

展示コーナーでは、各団体が特色をだした企画で盛り上げました。

石川県薬剤師会のブースは、薬をセットするカレンダー、半錠に割る道具、吸入のデバイスや薬の見本などを展示。実際にさわってもらえる体験型にしました。介護職員やケアマネージャーの方が多くこられ、いろいろな道具に興味を持ったようです。

在宅医療をすすめるためには、多職種が連携することが大切です。しかし、なかなか進まないのが現状です。結局は、このような会で協力しあうこと、懇親会などで親睦を深め、顔の見える関係を築くことが近道なのかもしれません。



今年も「健康フェア」

三 浦 智 子

11月12・13日の両日、石川県産業展示館で恒例の健康フェアが開催されました。

今年は県民に少しずつ浸透してきたようでそれなりに多数の参加者があり、石川県薬剤師会では脳年齢測定とお薬相談を行いました。

脳年齢測定にはさすがに関心が高く列ができる程で、年齢より若い判定が出たときの歓びよう、年齢より上の判定が出たときの落胆ぶりをみていると、さて自分はどう思ったとき、単純な作業ながら皆の前です

るのがはばかれるくらいでした。

お薬相談にも前もってご自分のお薬手帳をお持ちになり、準備されて来て当てにされていることを実感しました。

今年は皆様にお薬手帳を差し上げていましたが「お薬手帳」の認知度も高く、普及率も高いと思いました。

お薬相談だけではなく、県民の皆様の関心のあるものと組み合わせると、薬剤師会のブースにたくさんのかたがお寄り下さるのだと思いました。



6年制第1期生の卒業にあたり

北陸大学薬学部 臨床薬学教育センター 多田 昭 博

いよいよ6年制薬学教育を受けた学生が3月に卒業し、全員国家試験に合格し(折り!), 4月から薬剤師として現場でスタートします。学生たち同様、私たち教員も期待と不安でドキドキしています。

今、北陸大学では6年生は国家試験合格に向けて猛勉強をしています。4年制の学生ももちろん最終コーナー回ってから素晴らしい粘りで頑張りました。しかし、今の6年生は、最終コーナーどころではなく、昨年4月から約1年ずっとムチを入れられ、最後まで耐えられるのかと心配していましたが、頑張り続けてくれております。大学教員の立場から見て、鼻息目かも知れませんが、よく頑張ってくれている感心しております。

よく頑張れるものだとの思いを持って、学生と話をすると、この頑張りのもと、実務実習で感じた「こんな薬剤師さんになりたい」という思いがあるからだ多くの学生がいます。私自身は実務経験のある教員として授業や学内の実習の中で、「クスリ」という物質だけでなく、それを使う「ヒト≒患者」について学生に教えようと思いました。しかし、「教育力」の拙さ故に、反応はさみしく、脱線した余計な話として受け取られたように思い、伝えることのむずかしさを痛感してきました。仕事の対象が千差万別の患者さんであり、その患者さんに対応することに正解はないということも伝えきれませんでした。しかし、このようなことを実務実習では、皆がいと

も簡単に(?)身に着けてきます。

また、学生たちは、実務実習前には、自分の頭の中で薬剤師像を持っていなかったと思います。実習に出てそれを見つけて来いと我々教員にいわれても、その点では反応は薄かったように思います。実際に実務実習に臨み、幸いにも素晴らしい指導者の先生方に出会い、また、多くの患者さんとふれあいました。中には、服薬説明した患者さんが実習中に、悪化して再入院してきたり、亡くなったりし、涙した学生も何人もいたと聞いております。そのような体験の中から、薬剤師の存在意義、チカラ、仕事の重大な責任とやりがい、それにその楽しさ・喜びを知りました。そして、指導いただいた先生たちに比べ、自分たちの知識なんて、足元にも及ばないということを強烈に印象つけられて帰ってきています。だから勉強しなければいけない。それは、いうまでもないこととして身にしみて感じています。と、学生たちは私に語ってくれました。単に国家試験に受かることが目的ではなく、その先の薬剤師の仕事がしたいという思いが、そして、あこがれの薬剤師さんに一歩でも近づきたいという思いが、勉強のモチベーションになり、通過点である国家試験の勉強の原動力になるのだということです。実務実習にご尽力いただいた先生方に、感謝をこめて、この学生たちの思いをお伝えしたいと思います。また、実務実習の大きな意義を改めてお伝えしたいと思います。

薬剤師の皆さまよりよく聞かれることとして、「今までの4年制の卒業生との違いは？」という質問があります。教員経験が浅い私には到底お答えできないのですが、他のベテラン教員に聞いてみても、5ヶ月の実務実習を経験していること。それが最も大きな違いだといっています。その結果、医療に対する意識は強く、医療系の科目の知識は従来より強いように思えるそうです。そして、知識だけでなく、「態度」も大きく改善していると感じています。ここでいう「態度」は薬学部生として、患者さんをはじめ、人と接する態度だけではなく、勉強や日常的なことに臨む態度を含めます。

教員としては、正直なところ、実務実習に出すには何かと心配な学生はいました。しかし、その多くは「予想」と違って、真面目に、積極的に実習に取り組んでくれました。そして、大きく「態度」が改善されて帰ってきています。

2年目の実務実習である本年、先生方より学生について多くのお叱りを受けました。「実習中止」という言葉も何施設からいただきましたが、幸いにも学生が「態度」を改め、実習継続できました。いずれも、注意を受けてから、学生は見違えるように変わりました。「叱られる」ということを今まであまり経験していない学生だったのででしょうか、それとも先生方が真正面から向き合って、叱っていただいたためでしょうか、とにかく見違えるように変わりました。今後とも是非、先生方から悪いところは悪いと叱責していただくことが、学生を変えることにつながると信じる体験でした。

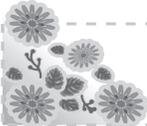
即ち、「今までの4年制の卒業生との違いは？」という質問にお答えするとしたら、「医療と患者さんに向き合う真摯な姿勢がある」ことだと思います。残念ながら決して、大幅な学力アップはないような気がします。。。。。？ 本当の答えは、これから何年か経ってからわかるのだと思います。

中には、即戦力になるような教育をしてほしいという声もあります。しかし薬学部は職能教育はするとはいえ、決して専門学校ではありません。「pharmaceutical science」を教えるところです。樹木でいえば、深い根と太い幹を教え育てるところだと思います。職能教育にだけ目を奪われ、実りである花や葉を促成栽培的に実らせることにばかり目標とせず、根と幹にあたる「薬学=pharmaceutical science」の上に職能教育を積み重ねたいと思っています。我々は「薬学」を削って、実務を教えているのではないかと反省しているのですが、それが、卒業後、大きく育つための根と幹が不足しているのではないかと心配しています。

学生たちは、実務実習を体験して、それ以前に考えていた自分の将来の仕事について、改めて考え直しました。卒業後の進路として、従来のように、「薬局か病院か製薬会社か」というような選択ではなく、どのような薬剤師になりたいか、どのような姿勢で仕事をしたいかと考えたと思います。そして、学生たちにとって幸いなことに本年度は、就職先には困らないくらいの求人がありました。ですから、多くの学生が望んだ形で就職できるのではないかと思います。彼らが「医療と患者さんに向き合

う真摯な姿勢」で仕事に臨み、その姿勢で
臨んだ故に、多くのことを学び、数年後に

は皆さんの職場を担うような人材に成長し
てくれることを祈っております。



いまだからこそ薬学教育を考えよう



金沢大学附属病院薬剤部長 宮本 謙一

平成18年、薬剤師教育が6年制となり、
平成24年3月、最初の6年制卒の薬剤師が
世に出ようとしている。

私が、薬剤部に着任した時、病院の多く
の臨床の医師から「薬のことは、実は良く
分からないで使っている。指導をよろしく
頼む。」や「化学とつくものはお願いします。
病院では薬剤師しか頼りにならないので…」
との言葉が多く寄せられ、臨床に初めて
飛び込んだ私としては面食らうばかりであ
った。「そんなこと隣の薬学部へ聞いてく
れ。」と言いたい質問も多々あったが、
昨日まで薬学部にはいた私としては、聞
いても無駄？とは言わないまでも答えが
返ってくるのに何カ月？いや何年かかるか
もしれない。現場では、今スグ、遅くとも
明日には答えがほしいのです。病院での薬
剤師の役割の広さ、責任の重さを痛切に感
じたものでした。開局の薬剤師もおそらく
町の科学者、薬の専門家、健康相談相手と
して頼りにされているものと思う。事実、
アメリカで最も信頼されている職業は薬剤
師（おそらく町のドラッグストアの薬剤師
と思われる）であり、日本での類似の調査
でも薬剤師は常に信頼できる職業の上位に
ランクされている。今から世に出る薬剤師
の評価が少なくとも現状を下回らないこと
を祈るばかりである。薬学部の教員を含め

て6年制薬学教育を担当してきた現場の
我々への評価が下されることにもなるので
ある。

さて、その薬学6年制教育の目玉として
の臨床教育＝実務実習ですが、ほとんどの
施設では11週間の薬学生の実習教育は初め
ての経験であり、日常業務の中、学生指導
に戸惑い、また、後進の薬剤師を育てる、
という喜びと使命感を感じながらも苦労の
連続であったものと推察する。学生実習に
携わったすべての方々に感謝と敬意を表し
たい。しかし、その実習内容、即ち実習コ
ア・カリキュラムに則った教育が真に学生
が期待し、そして社会の要請に応えるもの
であったのであろうか？この6年制教育で
は、従来の見学型から参加・体験型実習に
踏み込んだ。即ち、“医療の実情を学び、
患者の痛みを知る。臨床のなんたるかを体
験させる。”のが最大の目的であるはず
が、細かい項目を指定して、やたら「…で
きる」到達目標を定めたコア・カリキュラ
ムに振り回されたのではないのでしょうか。
中には、しっかり教えなければ、という薬
剤師特有の生真面目さで体験より座学重視
の教育、これを手作りの教育と勘違いして
大変な労力をつぎ込んだ実習指導者もいる
のではないのでしょうか？そして、大変申し
上げにくいですが、そのようにして苦労して手

をかけて育てたはずの学生の不満足第1位が「ベッドサイドや病棟での実習や患者とのコミュニケーションが十分ではなかった。」即ち、「臨床経験」があまりできなかった、というものであった。6年制教育の社会の期待は、「従来の4年制卒業薬剤師と比べて臨床を熟知し、チーム医療に貢献できる薬剤師」であったのに・・・。

さて、このような学生の声や受け入れ側の体験と反省に立って、今後の6年制教育の内容や実務実習のあり方、コア・カリキュラムの見直しなど、いろいろな提案がされ、改善策が検討されることになるのであろうが、私は、薬学教育に対する政治、行政、教学、そして薬剤師会や病院薬剤師会などの医療現場の思いが何かちぐはぐのような気がしてならないのである。先人にとっては薬学6年制を実現することが宿願であった。これが近年の医療における薬剤師の重要性が高まるにつれ、臨床感覚を有する薬剤師教育のニーズと一致して文科省と厚労省が動いた。しかし、何が何だか分からないのが、ペーパー薬剤師ぞろいの教員である。彼らの興味は研究であり、重要なのは研究業績なのである。教育業績の評価法はない。確かに日本の薬学教育の始まりは製薬・創薬であり、ほんの一時はその役割を果たしたかに見えたが、今や基礎研究力だけでなく“創薬力”も理学、工学、農学、医学分野に後れを取っている。だからこそ、創薬研究者の養成として4年制薬学を残したのかもしれないが、薬剤師を養成しない薬学部にどれほどの意味があるのか？臨床経験のない、患者の痛みも知らない研究者に社会が求める薬を創ることができるとはとても思えない。幸い、私学

のほとんどは薬剤師教育に舵を切った。しかし、船頭は変わらずペーパードライバーであるため、臨床薬剤師教育のなんたるかに頭が回らない。最大の悲劇は、薬学教育のガイドラインともいえるコア・カリキュラムを策定したのが他でもない研究者集団の「薬学会」である。そして、教学も現場も薬学6年制ありきで、医学部6年制に並んだ！と歓喜するばかりで、その中で何を教育しなければならないかに思考がついていない。

今こそ、日本社会が求める薬剤師教育の在り方を構築しなければならない。薬局だ、病院だ、薬剤師会だ、病院薬剤師会だ、いや薬学会だ、医療薬学会だ、大学だ、と争っている場合ではない。良いお手本として医学教育、医師養成教育があるではないか。6年間を本当の薬剤師教育に当てる。勿論、研究能力、問題解決能力もその間に養う。創薬能力はともかく、研究能力は医療現場の中では薬剤師はピカイチである。この特徴を伸ばさない手はない。臨床薬剤師と真の創薬研究者の養成のために延長した教育期間2年間をどのように使うべきかを改めて良く考えるべきだ。“病院実務実習は少なくとも半年程度は必要である”というのが私の持論である。加えて薬局実習である。学部6年間の教育の中でそれが無理なら、実務実習・研修は卒業してからでも良いではないか。薬剤師レジデント制度のような実習体系も考えられる。欧米や中国では、薬学部を卒業後一定期間のインターンやレジデント研修を経ないと国家試験受験資格を得ることができない。今こそ、薬学教育・薬剤師養成教育の100年の計を打ち立てる時だと思う。

オペラ高野聖

石川県薬剤師会 中 森 慶 滋

泉鏡花の「高野聖」がオペラとして上演される。高野聖合唱団を率いるのは薬剤師会の綿谷敏彦先生である。それをこのたび聞きに行くのだが、一つだけ謎がある。「高野聖」の主人公のお坊さんだけがなぜ色気立つ女から動物にされることなく無事

生きて帰ってこられたのか。

その謎を探ろうと泉鏡花記念館に行ってみることにした。そして鏡花ゆかりの地を歩いてみた。





写真を撮った翌週、久しぶりに行く歌劇座で泉鏡花原作の世界初演オペラ『高野聖』を見てきた。ホールに入ってうろうろしていると作曲者である池辺氏が歓談しているのが目に入った。場内は空席がほとんど見られないほどの盛況ぶり。なかなかここまで観客を集めることができるなんてたいしたものだと思う。それも泉鏡花と金沢人になじみの深い題材をオペラに仕立てたためなのであろうか。

高野聖とは高野山から諸地方に出向き、勸進、勸化、唱導、納骨などを行った僧を言うらしい。その僧が山道で富山の葉売りに出会う。葉売りからは悪態をつかれ、からかわれる。「お坊さん女にもてないから坊主になったと違うかね。それとも俗世間に未練があるのじゃないかね」

途中別れ道に差し掛かったところ、葉売りからはこっちが信州への近道だといわれたためにそちらに行くことにする。葉売りとははぐれてしまったが暫く行くと、人家があることに気がつく。人家から出てきたのは美しい女性。お疲れが見えるので下の



谷川に行って体を流したらいかがでしょうかと言われ案内される。体を水に浸していると美女も衣服を脱ぎ始めた。

+-+-+--+-

「汗臭うはございませんか、わたしは汗っかきですから」とさらりと着物を脱いだ女の肉付きのよい柔らかな肌が、僧の触れる度に、僧はこの世のものとは思えぬ陶醉の世界に浸っていった。

「恥ずかしがらずに・・・、それとも叔母さんのお世話では、おいやでござんすか」女の悪戯っぽい問いに、僧は「いいえ、いいえ柔らかな花びらの中に包まれていくようで・・・」と答えるのがやっただった。「まあ嬉しいことを・・・、こんなお転婆をして、私、川に落っこちて流されていったら、里の人はなんていうでしょうね。」女は妖艶な中にも或る気品を漂わせながら、僧の体に手を回して語りかけた。僧は思わず「白桃の花だと申しましよう」と言った。

オペラ『高野聖』パンフレット「あらすじ」より

+-+-+-----+

僧が女と連れ立って戻ってきたところを見て、無事帰ってきたことを驚く。薬売りは女に馬にされてしまっていたのである。女は男を誘うとはヒキガエルやこうもり、馬など獣に変えてしまう妖怪だったのだ。ここで一幕は終わる。実際僕が覚えていた筋もこのような内容であった。そして、第二幕が始まる。展開はどのように行われるのだろうか興味深いところである。

二幕では対比によって揺れ動く人の心の情景が演じられた。僧は聖職を捨ててでも気品のある女の立居振る舞いに心を引かれる自分と葛藤する。女はこれまでの俗な男とは違う純粋な人間としての美しさを僧から感じる。

+-+-+-----+

人の立ち入れない、閉じられた世界に生きる妖艶な美女の、激しい本能ともいえる情念と、一方、真実の愛を遂げられて人間らしい清楚な女の幸せを求める願いの狭間で、切ないまでに苦しむ女の心情に、僧はやはり切ない愛しさと心残りを覚えつつ山を降りていった。

真実の愛を知った女は「私は魔女ではありませんせぬ」と、僧の変わらぬ想いを切々と歌い続けるのだが、その歌声は僧の胸に、かつての女の姿そのままに響いていくのだ。

オペラ『高野聖』パンフレット「あらすじ」より

+-+-+-----+

金沢は闇の街であると栗本慎一郎は『都市は、発狂する』で書いていたように金沢の夜の街には不思議な趣がある。特に鏡花が生まれ育ったあたりには、時間が止まってしまっている。気がつくと異空間への入り口を通り越してきたことに幽玄な感じを感じる。そのような泉鏡花の世界を描くオペラの初演に立ち会えたことの幸運を感謝する。

一幕でクライマックスは終わったものと思っていたら、さらに深い鏡花の世界が描かれていたことに、金沢の街と同じようだと感じる。それはどこまでいっても飲み込まれてしまい、まるで底がないような闇の世界である。

金沢発のこのオペラが長く絶賛されるであろうことを予感させられた、そんな12月の夜であった。





薬師寺東塔が解体修理されると最初に耳にしたのは平成21年の春である。その年秋に事前調査のため一時覆屋がかぶされたが、22年が遷都1300年記念のため、春から10月末までは東塔西面扉が開扉され内陣が公開された。9月に内陣に入った折、天井ほうそうげもんよう絵の宝相華文様もはっきり見えず、素人目にもかなりのひどい傷みようが各部に見て取れた。

東塔は各層に裳階もこしをつけた小屋根と大屋根が二層になっているので、一見六層にみ



法要開始前の東塔（金堂側から）

えるが三重塔である。「六階にみえても三重塔なので誤解（五階）のないように」、「大屋根の天武天皇が裳階の持統天皇（天武天皇のきさき后）を抱きしめている形」などと説明される。

東塔には忘れられない思い出がある。

まだ西塔の礎石がある頃で、礎石の上に立って東塔を見上げた最初の出会いが忘れられない。昭和50年あるいはその前年かも知れないが曇り空だった。その後昭和56年に新しく西塔が建立され、古の東塔と並ぶ光景となった。両塔が同時開扉された平成8年3月が東塔に入った最初である。西塔内で山田法胤執事長（当時）の読経の後、東塔に移動して再び10人ばかりの参拝者と一緒ごんぎょうに般若心経をあげる。勤行が終わり東塔を出て本坊方向へ5メートルほどのところで、法胤師は思い出したように振り返り、「川崎さんによろしくウー・・・」と去って行かれた。この情景が15年を経た今も、ついこの間のことのように鮮やかに目に焼きついている。川崎さんは、当時石川県薬会会長を務めていた二年先輩である。

「東塔解体修理」の報に接してから、遠く離れた地にいる者には、その姿を隠して

しまう日が分からないまま10年間ほどはみられないとの思いが常にあった。が、そんな懸念が払拭されるとはさすが薬師寺さんだ。考えてもみなかった「東塔大修理着工法要」が平成23年6月25、26日に行われ、どちらかの日を選べる招待状をいただいたのであ

る。この歴史的瞬間には何としても参加しようと思決意した。そして、この日が東塔との別れの日なのだと思自分なりに位置付けた。

6月25日は梅雨の最中とあって、雨の確率が高かったので、傘を用意して前日に奈良へ。ところが雨の心配は消えたものの、真夏並みの暑さに見舞われることとなった。24日は埼玉や群馬で39.8℃を記録する



西塔側から望む東塔

など、各地でこの時季にしては記録的な猛暑と報道される。

近鉄西の京駅9時25分着の電車を降りると、東塔へ向かう人波となる。この波に乗って東僧坊の裏を歩いていた時、こっちを見て手を振り「やあー、こんにちはア・・・」と、太く大きな声。こちらは気づくのが遅れてしまったが、大谷徹装師である。役目がらお忙しいはずと簡単な挨拶ですませたが、この日に最初にお会いできるとは、やはり何か深いご縁を感じる。

総合受付で封筒と席札を受け取る。東塔から西塔、金堂から中門に囲まれた広い範囲の芝生の上におびたしい数の椅子がぎっしりと並べられている。席札西②の位置は舞台から西塔側で中門寄りのエリアである。比較的前方に座れて、見回せば特設



大谷徹装師



市川団十郎丈の奉納舞（朝日新聞より）

された舞台は西側からは正面になる。金堂の扉も中門の扉もいつもと違ってすべて閉じられている。

法要が始まる直前に「山田法胤管主の特別な心遣いで炎天下の熱中症を避けるためにと急遽お茶を一本ずつお配りします」と徹装師から説明がある。そして、「受付で渡した封筒の中に記念品の手ぬぐいが入っているので、直射日光を遮るために頭から被ってください」と。新品の手ぬぐいをすぐこの場で汗まみれにするのには躊躇したが、暑さ対策はほかに何もしていないので被ることにした。やはり被るとずいぶんましなことを実感した。手拭は東塔の絵柄で「ほつぽだいしん 発菩提心 しょうごんこくど 荘厳国土」と青く染め抜かれている。

法要は10時半から式次第に従って始まった。

一、奉納舞

本堂の扉が開いて、たびたび薬師寺に参拝しているご縁という市川団十郎丈の登場で「さんばそう 三番叟」を舞う。正月や祝儀に上演されるが、今回は特別な形の奉納で、鳴り物長唄の流れる暑い中で、飛び跳ねる激しい動きの多い体力を消耗する舞いで目を惹きつける。

一、さんげ 散華

舞台中央には東塔内に安置されていた釈迦苦行像が祀られ、左に式衆14人、右に長老お二人が並び、読経のなか散華が撒かれた。天空に仕掛けられた袋から大量に降ってきたが、風の吹きようで金堂方向になびくばかりで、こちらの方には全く舞い降りてこない。青空にひらひら舞い落ちる五色の紙片は絵になるものだったが、上を見上げるばかりで写真も撮り忘れてしまった。夏の青空を背に、水煙の先端に取り付けられた五色布がはためくたびに、東塔は長い歴史の中で一番の晴れ姿を誇示するかのようである。

一、棟札おろしの儀

主に屋根や相輪などの修理が行われた昭和27年に東塔内に安置されていた棟札が、白布に巻かれて雅楽にのってゆっくりと東塔の最上階から地上に60年振りに降ろされるクライマックスである。棟札は舞台上の法胤管主にうやうやしく手渡された後、釈



棟札おろしの儀（朝日新聞より）

迦苦行像の横に立てかけられる。棟札には大僧正凝胤、副寺主好胤など当時の施主名が書かれている。

一、表^{ひょうびやく}白（注：法会するとき、その趣旨を仏前で読み上げる文）抜粋

—中略— 国宝ノ東塔ハ 初メ明日香藤原京ニ 天武天皇・持統天皇ニ依テ創建々立サルル 然ル後 都ハ平城京遷都ニ伴イ薬師寺ハ 西暦七一八年ヨリ移建 今此ノ地西ノ京ニ 移サレ 今日ニ至ル 風雪人災ニ耐エ 千三百年ノ時風ノ中 名塔ノ誉レ高ク「凍レル音楽」ト愛称サレ 佐々木信綱博士ノ東塔讃歌有リ 又『鹿鳴集』ノ歌人 会津八一先生ノ東塔ヲ慕イシ歌数種アリ

然レドモ星霜ヲ重ヌル間 白蟻風雨ニ浸

食サレ 心柱・四本柱・側柱等 悉ク空洞化進ミ 文化庁調査指導ノ結果 解体大修理トナル 国庫補助金 薬師寺御写経勸進ノ浄財 奉賛会々員ノ浄財 更ニ奈良県・奈良市ノ補助金ヲ加エテ 総工費約二十七億円也

修理完了ハ平成三十年ト定メ 本日東塔棟札降シノ儀式ヲ举行シ修復成就ヲ誓イ 工事ノ無事ヲ祈ル —中略—

伏シテ乞イ願ウ 本日東塔大修理着工法要ニ参列随喜者 有缘ノ善男子善女人 薬師寺伽藍復興写経勸進結縁者 東塔大修理特別写経結縁者 奉賛会々員等 各家ノ先祖代々證大菩薩ノ為ニ 阿弥陀仏名 東日本震災被害者諸願成就ノ為ニ 釈迦牟尼宝号 衆病悉除身心安楽ノ為ニ 薬師仏名 乃至法界 平等利益

南無釈迦牟尼仏 南無釈迦牟尼仏 南無釈迦牟尼仏

平成二十三年六月二十五日・二十六日

薬師寺管主 法胤 敬白
独特の抑揚と長短の節がある読み方で、



法話中の山田法胤管主

耳に心地よい^{しょうみょう}声明の響きである。

一、読経 代表焼香

すでに東塔特別写経の10巻を完納された方などの焼香が読経のなかに続く。

一、記念法話 山田法胤管主

暑さにとうとう耐えがなくなつたので、西塔が影をなす僅かな部分に移動して、管主の法話に聞き入る。いつものように味わい深い中にユーモアあふれる巧みな話術に時を忘れる。「人間とは誠に勝手なもので、今日は雨が降るかどうか、なんとか降らないでほしい。こんなに晴れたが、カンカン照りになれば少しは曇ってほしいと願う……。今の社会状況の中で、戦後のモノのない時代の原点に戻るということから、昼食は日の丸弁当にしました。そして、当時は死に際にしか食べられない貴重な食べ物だったバナナを今日の日に合わせて熟成されたことに感謝して……」。

回廊内の日陰で日の丸弁当をいただき、最後となる東塔内陣を参拝した。そして、講堂横の立礼席で法胤管主と記念撮影をいただけたことは何にも代え難い記念品になった。

与楽門付近で萩の花が咲いているのに



山田法胤管主と

早っ！と驚きながら、^{げんじょうさんぞういんがらん}玄奘三蔵院伽藍での野点がこの日の最終章。うだる暑さしのぎに写経道場に入って一休みする。横で手を洗う人の腕はまさに^{あかはだやき}赤膚焼だ。写経場での一休みは超長休みとなり、暑さの中でまた歩きまわるのも難儀で、それ以降の予定を早めて帰路に着いた。

翌25日の朝日新聞には‘国宝よ無事で’の見出しで、棟札を舞台に運ぶ写真が掲載



東塔（手前）と西塔（奥）（東院堂から）

され、参列者は4000人とあった。また、法要が終わって間もない30日には法胤管主が二人の僧侶と岩手県宮古市の出崎埠頭で、海に向かって震災の犠牲者の冥福を祈って読経法要したとの新聞記事は表白で述べられたことの実証である。

東塔は相輪まですっぽり覆う高さ42.5メートルの鉄骨造りの覆屋が被され、2年がかりですべて解体されるが、修理現場の公開も予定されているらしい。破損部材の

取替えや繕いをして、構成部材は約9000点、瓦は約2万点の一点ごとにすべて番号札がつけられる創建以来最も大きな修理工事が始まる。修理が完了した東塔の晴れ姿を再び目にするができるだろうか、極めて心もとない昨今である。

参考書

『薬師寺』第168号 平成23年6月25日発行

薬剤師生涯学習説明会 1月15日開催（予告）

6年制薬剤師の誕生が間近になり、薬剤師の生涯学習が本格化して参りました。県薬では新たに生涯学習委員会を設置し、日本薬剤師会が取り組んでいる「薬剤師プロフェッショナルスタンダード」（日薬PS）を基本とする学習システムを積極的に活用して、みなさまの生涯学習を支援してゆく所存です。すでに通知していますが、1月15日「生涯学習・日薬支援システム」の説明会には是非ご参加ください。

（中森慶滋 石川県薬剤師会・生涯学習委員会委員長）

原稿を募集しています。

- ◇「県薬レポート」では、この小冊子をより一層愛されるものになりたいと願って、読者の皆様から広く原稿を募集しています。
- ◇テーマや内容、体裁は自由です。評論、随筆、意見、提言、店頭体験談、趣味の話、詩、短歌、俳句、川柳、或はマンガ、イラスト、カット、写真等々何んでも結構です。ただしあまり長いものは御遠慮の程を……。
- ◇用紙や宛先等は下記のとおりです。
用紙：400字詰原稿用紙又はハガキ
〆切：特に設けていませんいつでもどうぞ
宛先：金沢市広岡町イ25-10
社団法人石川県薬剤師会内

その他：採否は編集係におまかせ下さい。なお、いただいた原稿はお返しできませんのでご了承下さい。

「県薬レポート」編集係

編集員：坂元 倫子、中森 慶滋、西上 潤
橋本 昌子、三浦 智子、森 正昭

石川県薬剤師会ホームページのアドレス

<http://www.ishikawakenyaku.com/>

会員専用パスワード

ID: ipa01 password: ipa01 (いずれも半角入力)

eメール・アドレス

isiyaku@plaza-woo.jp